

ラストは初めから決まっていた



映画を完成させた（左から）和田さん、垣本さん、国土さん（河合町で）

王寺町舞台生徒が映画

西大和学園中学・高校（河合町）の映画研究部が、王寺町を舞台にした映画「ラストは初めから決まっていた」を完成させた。動画投稿サイト「ユーチューブ」の王寺町公式チャンネルでの配信のほか、役場の案内画面などでも流れており、「多くの人に見てもらえたら」と部員たちは話している。（浜井孝幸）

西大和学園研究部 動画サイトで配信

映画は約40分の作品で、こ小手鞠るいさんによる同名の恋愛小説が原作。大学の授業で小説を書くことになり、作品を添削し合うことになった大学生の男女の物語だ。昨年1月、作中に登場する王寺町から、映像化の提案を受けた映画研究部が、町や地元の人たちの協力も得ながら、達磨寺の境内や明神山などで撮影。昨秋に完成させた。

高校1年で部長の国土奈



「ラストは初めから決まっていた」の一場面。西大和学園提供

桜子さん（16）が脚本や照明など、高校1年の和田一花さん（16）が監督、中学3年の垣本梨花さん（15）が小道具やショートバージョンの監督などを務めた。

原作から映画で使う場面のセリフを書き出すなど台本作成、配役、撮影、編集作業まで自分たちで行った。映画研究部には中高生合わせて約10人の部員が所属し、協力して作品を仕上

げたという。ヒロインの女性ら大学生役は西大和学園中学・高校の教員らが協力した。

国土さんは「小説のどの部分を切り取って台本にすれば、うまく見せられるか、考えるのが難しかった。形にできてうれしい」と振り返った。和田さんは「反省点もあるが、自分たちの努力の結晶。部屋の中で2人が話すシーンを見てもらえたら」と話し、垣本さんは「どう映像化するか悩んだ。予定通りに撮影が進まず、完成まで苦労した」と語った。